

魂を育てる(12)「試練の意味」

メッセージノート (2024.5.5)

創世記 41 章 エジプト王の夢の意味を解き明かすヨセフ(1-36 節)。エジプトの総理大臣になるヨセフ(37-55 節)。

◆ **試練の意味:**ヨセフの試練の意味は、彼個人が成功していくためのもの(訓練)ではなく、神の目的を果たすことのできる器となるための備えであった。

- ・ ヨセフの人生は、しばしばサクセス・ストーリーのお手本のように捉えられるが、それは正しくない。神は、ヨセフの成長を通して、ヤコブの家族に和解をもたらし、大飢饉から世界を救い、そして、イスラエル民族がエジプトの奴隷から解放されていくという奇跡(過越)は、キリストの血による人類の救済のモチーフとなる。

エペソ 4:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。(新改訳)

- ・ 神に召された私たち一人一人は、例外なく、神の国を建て上げて行く働きが託されており、その使命を全うして行くために神は私たちを訓練される。

1. 神は試練を短くしようとしている

- ・ 「それから二年後」(1):あの献酌官の夢の解き明かしと成就から、二年間という意味だが、どうして神は二年もの間放っておいたのか?嫌がらせか?
- ・ その意味ははっきりと記されていないが、1つ明確に分かることは、いたずらに長引かせてはおられない。ヘブル語では、「二年」の後に更に「日」の複数形がついており、「二年の長い日々が終わり」という意味に解することができる。すなわち、神は何かを完了するのを首を長くして待っていた。心にかけておられたのだ。
- ・ 奴隷に売られて 13 年(17 歳で売られて、総理大臣になったのが 30 歳)。兄たちとの再会まではまだ 9 年(7 年の豊作の後 2 年後)ある。兄弟たちとの和解には何と 22 年の歳月を要した。アブラハムも約束から成就までに 20 年。ヤコブも叔父ラバンのところでの訓練に 20 年。何かを学ぶ(身につける)には、20 年余りの時間がかかっている。

2. 試練(訓練)の目的は魂を育むこと

- ・ 謙虚さ:パロに呼び出され最初にヨセフ言った言葉(叫んだ)は、「私ではない」(16)だった。ここにヨセフの謙遜さが伺える。ヨセフは、パロに好印象を与えようとして言ったのではない。
- ・ 続いてパロの繁栄について語っているが、ヨセフは、自分が得をするために発言していたのではない。純粋に国のことを思って語った優れた政治的発言。当時、エジプトという国家は、古代最も影響力を持つ国であり、その果たすべき役割と責任(リーダーシップ)という視点から語っている。

ローマ 13:1 人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神に由来しない権威はなく、今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです。(新共同訳)

- ・ 賢さ:単に先のことを予告しているのではない(32-33)。ヨセフの発言には、預言的メッセージが含まれており、これからどう行動したら良いのかという具体的政策まで準備されていた。これは、彼の思いつきや知識をはるかに超えた、神からの知恵であった。きっとこの場で、神が聖霊を通して一つ一つ啓示されたのであろう。
- ・ 承認:「心になかった」(37)は、「目に良かった」(直)で、王ばかりでなく、その場に居た高官たち、知恵者たちもヨセフこそがその任にふさわしいと満場一致で決定した。このような形での人材の抜擢は、普通あり得ないことだが、事の重大さとヨセフの知恵に、最初のうちは猜疑心を抱いていた人々も圧倒され、納得したのだろう。
- ・ 神の霊:王は、その理由を「神の霊が宿っている(神の特別の力)」(38-39)と説明しているが、どうやってヨセフはこ

のような超自然的知恵や謙遜さを身につけたのだろうか？それは、この「長い二年間」、そして、13年間の神の訓練を通して育まされて来たことであった。そのための訓練だった。

3. 苦しみを通して与えられる神の祝福は異次元

- ・ 40節以降には、ヨセフが前代未聞の出世街道を登っていく様子が描写されている。王国第二のポジションを与え、ツァフェナテ・パネアハへと改名し(生死をつかさどる神のような権力を持つ者という意味)、オンの祭司の娘アセナテ(エジプトで最も尊敬されていたリーダーの娘)と結婚させた。
- ・ ヨセフの願いは、できれば自由の身にしてもらえることだったが、彼の想像をはるかに超える神のご計画があった。しかも、ヨセフの祝福は一過性のものではなく、彼が告げた通り7年の豊作と7年の凶作は起こっていき、王や指導者たちのヨセフへの信頼はますます強まっていった。

詩篇 37:25 わたしは、むかし年若かった時も、年老いた今も、正しい人が捨てられ、あるいはその子孫が食物を請いあるくのを見たことがない。

箴言 10:22 主に祝福されることほどすばらしい富はありません。人間は、どんなにがんばっても、この富に少しでも加えることはできません。

- 総理大臣になりたいとは思わないが、私たち一人一人に神は驚くべき恵みを用意しておられる。これまでにどんな恵みをいただいて来ただろうか？これまで味わってきた苦しみには、意味があることを覚えよう！
- あなたは神から離れている大切な人(子、孫、家族、友)がいて、心を痛めているだろう。この箇所は、そんなあなたにどんな励ましを提供しているだろうか？

◆ まとめ：正しい訓練の受けとめ方

- ・ 「マナセ」「エフライム」の命名に表された訓練の受けとめ方：この2つはペアである。苦しみを通して、神の本当の祝福を理解し、また受け取ることができるようになった(器にされた)。人格の成熟は、一朝一夕にはいかない。
- ・ マナセ：「神が、私のすべての労苦と、私の父の家のすべてのことを忘れさせてくださった」からである。エフライム：「神が、私の苦しみの地で、私を美り多い者としてくださった」からである。
- ・ 神の訓練を通して学んだことは、自分のような者をも憐れみ深い神は、大いに用いてくださろうとしていること。そして、この私がい物になるためには、苦しみは必要であるが、その苦しみに潰されずに訓練を受け続けていけるように、神は私の人生の中にいつも共にいて助け導いておられるということである。

1コリント 15:9-10⁹ 実際わたしは、神の教会を迫害したのであるから、使徒たちの中でいちばん小さい者であつて、使徒と呼ばれる値うちのない者である。¹⁰しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜わった神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。

◆ 質問

1. あなたが今受けている試練(訓練)の意味について何か思い当たることはないか？
2. 神は、あなたが受けている試練の期間をできる限り短縮させたいと考えておられるということについて、どんな感想を持つか？同意できるか？もし同意できないとしたら、その理由は何か？
3. 苦しみを通して育まれた魂の報いは、天では永遠の栄冠が、そして、この地上においても異次元の恵みであると学んだが、そのことを心から期待しているだろうか？期待していないとしたら、それはどうしてか？